

◆ 今週のコメント

- ・ 細菌性赤痢の報告が1例(男性, 20歳代)あり, 症状は発熱, 下痢, 推定感染地域は国外(フィリピン, インド)で, 推定感染経路は経口となっています。本年初めての報告で, 平成20年 1例, 平成21年 1例, 平成22年 2例となっています。
- ・ アメーバ赤痢の報告が1例(女性, 40歳代)あり, 女性は, 本年初めての報告となっています。推定感染地域は国内で, 推定感染経路は不明となっています。累積報告数は13例で, 推定感染経路は, 性的接触が6例, 経口感染が4例, 不明が3例です。性別は, 男性 12例, 女性 1例で, 例年, 男性の報告例が多く, 平成22年は, 男性 16例, 女性 2例となっています。
- ・ RSウイルス感染症の報告が, 3例あります。例年夏季には, ほとんど報告がありませんが, 本年は, 第27週(7月4日～10日)から連続して報告があります。

◆ 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

腸管出血性大腸菌感染症の報告が2例(20歳代の男性, 10歳未満の女性)あり, 血清型別, 毒素型は, O111(VT1VT2)が1例, 不明が1例です。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 三類:細菌性赤痢 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 三類:腸管出血性大腸菌感染症 2例【1月以降の累積報告数 29例】
- ・ 五類:アメーバ赤痢(腸管外アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 13例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.03	2
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.45	98
	② 手足口病	1.73	69
	③ ヘルパンギーナ	0.73	29
	④ 突発性発しん	0.53	21
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.45	18
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

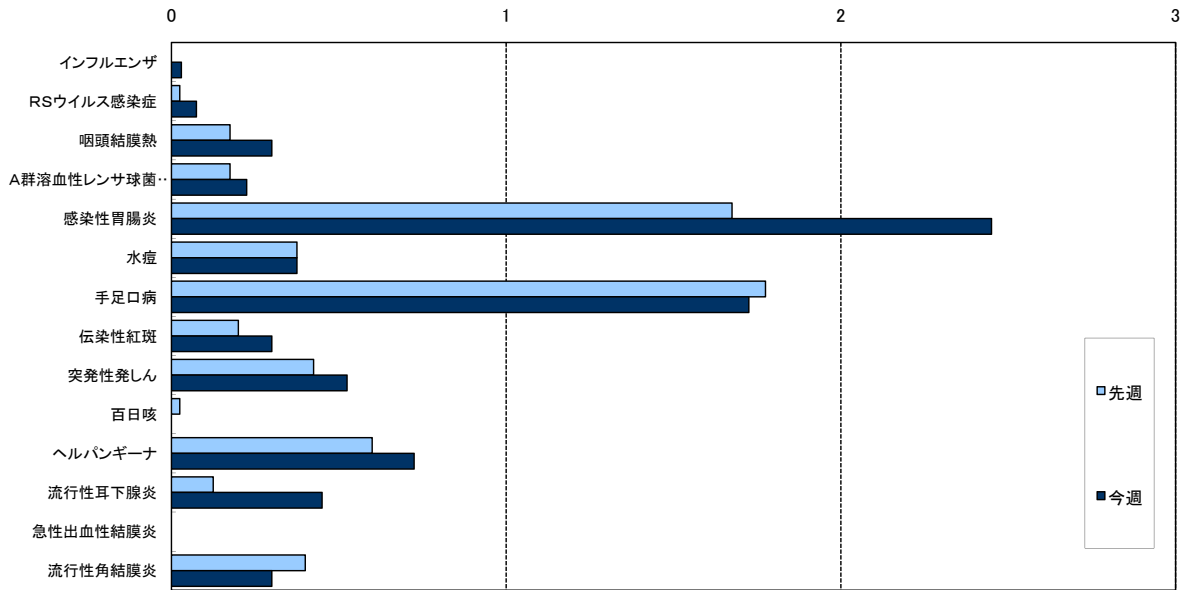
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

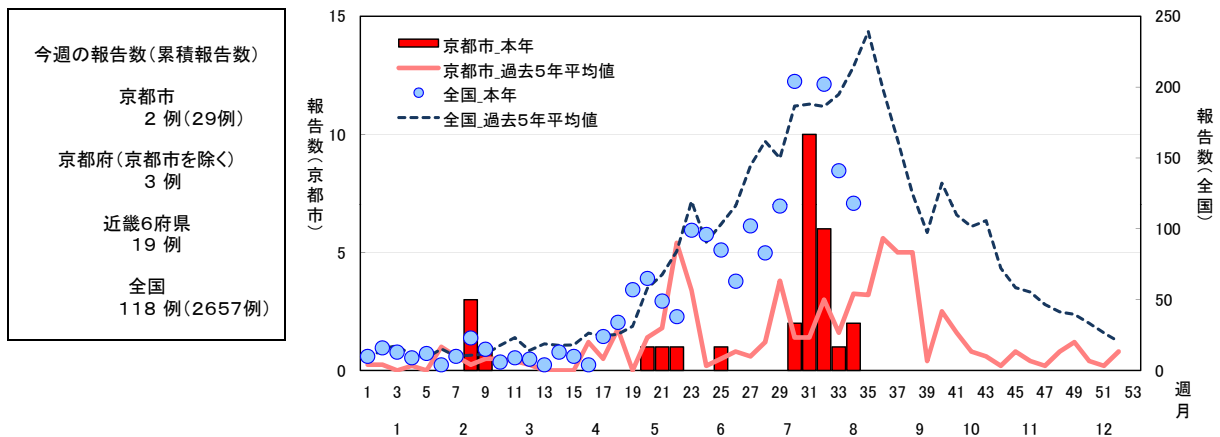
(注)京都市のデータは,平成23年9月1日現在の報告数で,全国の還元データと若干異なる場合があります。また,本情報での患者数は,届出医療機関所在地での集計で,患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第34週)と先週(第33週)の定点当たり報告数の比較

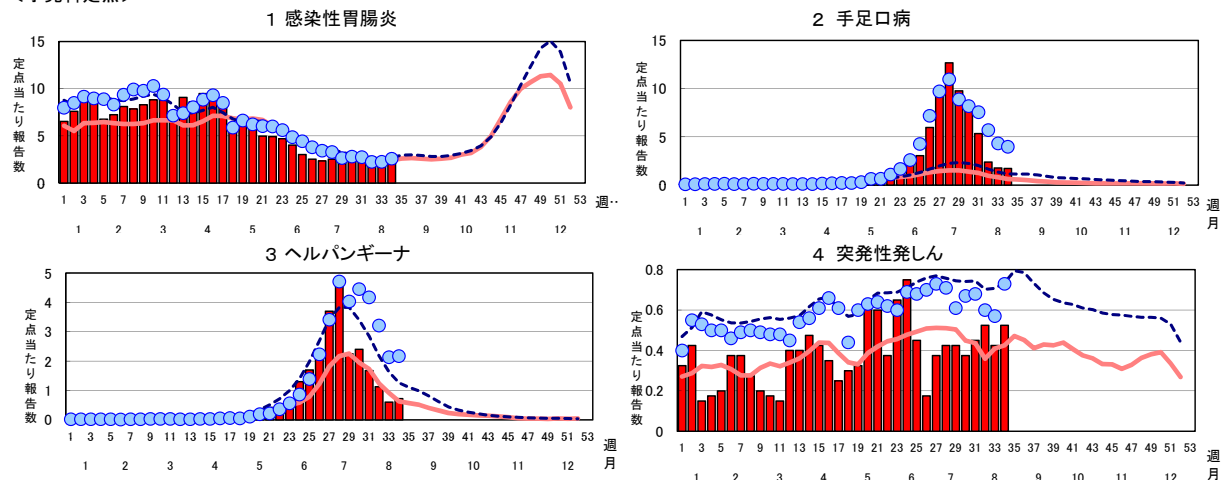


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

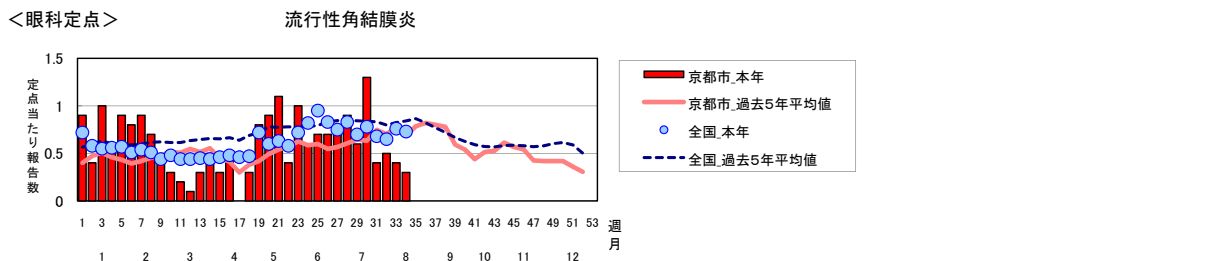


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第34週(8月22日～8月28日)トピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

腸管出血性大腸菌感染症の報告が2例(20歳代の男性, 10歳未満の女性)あり, 血清型別, 毒素型は, O111(VT1VT2)が1例, 不明が1例です。第29週(7月18日～7月24日)以降, 連続して腸管出血性大腸菌感染症の報告があり, 累積報告数は29例です。そのうち3組(9名)が家族内発生となっています。

年齢階級別では, 70歳以上が7例と多くなっています。

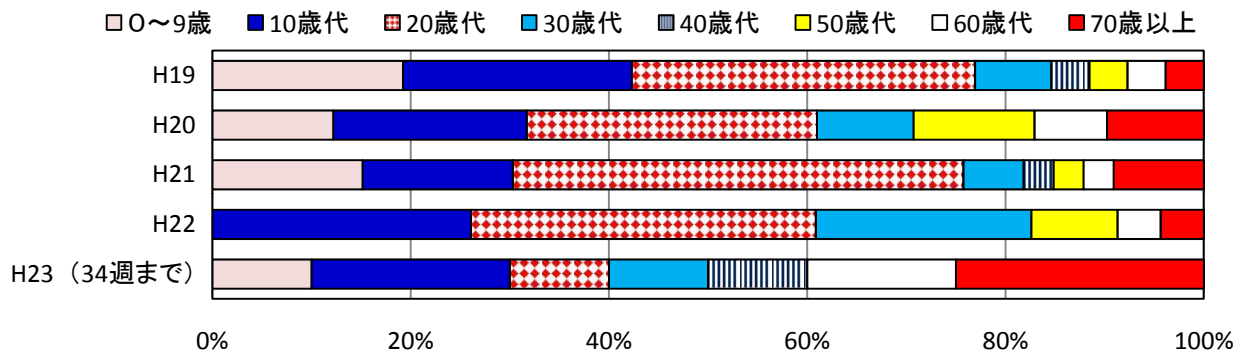
血清型別, 毒素型は, O86(VT1)1例, O111(VT1VT2)1例, O145(VT2)1例, O157(VT1VT2)23例, O157(VT2)1例で, 血清型別, 毒素型が不明の2例は, 溶血性尿毒症症候群(HUS)を併発しています。

参考: 国立感染症研究所感染症情報センター感染症週報(IDWR)2011年第32週より

<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/idwr/idwr2011/idwr2011-32.pdf>

全国では, O145による感染者の年間報告数は, 昨年(平成22年)が66例とそれまでで最多であったが, 本年は第32週までで114例と既に上回っており, O157, O26に次いで3番目に多いO血清群となっている。栃木県では食中毒事例として報告されており, 他の都道府県からも感染源・感染経路不明の散发例報告が増えていることから, O145(VT2)に汚染された水や食品を介した広域感染の可能性も考えられる。

年齢階級別割合の推移(散发例のみ)



本市の診断年別血清型別報告数

診断年	合計	O26	O86	O91	O103	O111	O121	O145	O157	その他
平成11年4月以降	26								25	O1が1例
平成12年	33	8							25	
平成13年	52	8				1			43	
平成14年	35				1				32	O165, 型別不明が各1例
平成15年	101	5							96	
平成16年	48	2					4		42	
平成17年	36	5		1					30	
平成18年	57	2					1		54	
平成19年	54	2				3			49	
平成20年	86	34			5	2		3	41	HUS患者で型別不明が1例
平成21年	93	8		1		3	1	1	79	
平成22年	34	1			1	2			30	
平成23年第34週まで	29		1			1		1	24	HUS患者で型別不明が2例